文化芸術推進基本計画

検討資料

計画改定の進め方

第１回

第２回

第3回

第１期中の
取組結果

課題等

市民意識調査
アンケート調査
（実施済み）

課題等

文化芸術推進審議会

計画の体系
基本目標
基本理念

文化芸術推進審議会

施策の展開

パブリック・コメント

改定（R8年度中）

資料１

吉川市文化芸術推進基本計画（第１次）の基本理念・基本目標・施策の体系

基本理念

文化芸術による幸福実感あふれるまちづくり

吉川市第６次総合振興計画のまちづくりの基本理念である「幸福実感を高める」「共に生き、共に創る」「誇れるまちを未来へ」を実現するため、基本理念を「文化芸術による幸福実感あふれるまちづくり」と定めます。

基本目標１

地域の歴史・文化の継承と活用

地域の文化財や歴史の保存に努めるとともに、それらを活用した触れ学ぶ機会の創出を図り、次世代への継承と活用を進めます。

- 伝統文化・歴史の保存と継承、活用
- 文化財関係機関の管理・運営と整備・充実

基本目標２

文化芸術活動の推進

文化芸術の振興・発展をめざした様々な施策の展開と、誰もが等しく文化芸術を鑑賞し、主体的に創作意欲を持って参加することができる環境の整備を進めます。

- あらゆる市民と多様な分野における文化芸術活動の充実
- 文化芸術に関する情報の収集と発信
- 発表・鑑賞機会の充実
- 文化芸術活動の拠点整備

基本目標３

文化芸術を活用したまちづくり

地域の魅力の向上と課題解決を図るため、多様な文化芸術を活用したまちづくりを進めます。

- 文化芸術の多面的な活用

吉川市文化芸術推進基本計画（第１次）の取組状況

基本目標１：地域の歴史・文化の継承と活用

伝統文化・歴史の保存と継承、活用

・市役所内において、「吉川市の文化財企画展」を開催。
・市外の歴史、文化施設から当市の歴史やまちの発展を学ぶ「市外文化財めぐり」や「子ども歴史学習会」を開催。

文化財関係機関の管理・運営と整備・充実

・先人が使用した農具、民具を直接見て学ぶため、郷土資料館を開館・公開。また小学校社会科見学を受入、実施。
・郷土資料館倉庫内の収蔵資料の確認、整理を実施。

基本目標２：文化芸術活動の推進

あらゆる市民と多様な分野における文化芸術活動の充実

・年齢、性別、国籍、障がいの有無等に関係なく、多様な参加者で創り上げる演劇公演を開催。イラストや裁縫など、得意分野を生かした多様な参画の実現。

文化芸術に関する情報の収集と発信

・従来の紙媒体による周知に加え、市公式LINEやX（旧Twitter）等の活用、商業施設でのポスター掲示、民間団体のウェブサイト等、様々なツールでの情報発信。

発表・鑑賞機会の充実

・市展のデジタルアート部門の試行等、発表機会を拡大。
・生音コンサートや演劇プロジェクトでのプロとの共演等、質の高い文化芸術に触れる機会の充実。

文化芸術活動の拠点整備

・市民交流センターおあしすでの、指定管理者による民間ノウハウを生かしたコンサートや落語会等の開催。
・吉川美南駅東口の文化芸術関連施設の設計・建設・維持管理に関する条件整理や事業者選定に向けた検討に着手。

基本目標３：文化芸術を活用したまちづくり

文化芸術の多面的な活用

・文化芸術を総合政策として、まちづくりに多面的に活用。
方針策定時(R1)：7事業 ▶ 第1次計画時(R4)：13事業 ▶ R5：20事業 ▶ R6：29事業 ▶ R7：35事業

第１次計画期間に未実施のもの

・歴史的行政文書の新たな保管場所の確保
・地域の文化芸術スポットの情報収集と発信。

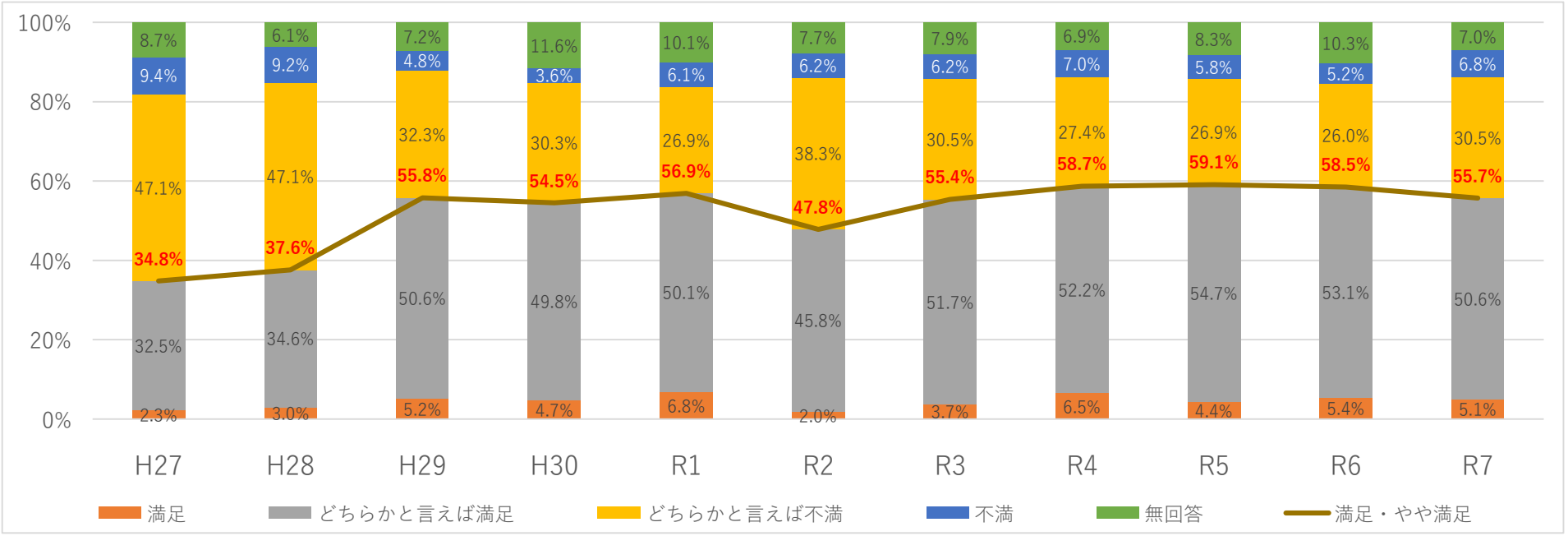
吉川市文化芸術推進基本計画（第１次）の達成状況の評価

【評価の概要】

・文化芸術の取り組みに対する市民満足度（市民意識調査）を令和８年度に60.0％にするという成果指標を設定しているが、第１次基本計画期間中の調査結果の推移を見ると、令和5年度（59.1％）をピークに、令和6年度（58.5％）、令和7年度（55.7％）と緩やかな低下傾向が見られる状況。

▶事業の成果が一部の層にとどまり、市全体への広がりにやや欠けている様子がうかがえる。情報発信や参加機会の面で、市民が文化芸術を身近に感じ、関わりやすい環境づくりにまだ工夫の余地があるといえる。

参考：市民満足度の推移



吉川市文化芸術推進基本計画（第１次）の課題

①地域における文化芸術活動の活力低下

・文化連盟の構成員が減少している。市民文化祭の参加者がコロナ禍以前(R1)の水準まで回復していない。
■文化連盟構成員数（総会資料）の推移
R1：588名 ▶ R2：589名 ▶ R3：562名 ▶ R4：515名 ▶ R5：453名 ▶ R6：378名 ▶ R7：351名
■市民文化祭参加者の推移
R1：1,126名 ▶ R2・R3中止 ▶ R4：479名 ▶ R5：600名 ▶ R6：860名 ▶ R7：836名

・資料２：市民意識調査の結果では、活動したい気持ちがあったがしていない理由について、「活動の時間が確保できない」が最も多い。家事・育児など日常生活における役割や負担が増え、自由に使える時間が限られる中、手軽に接続できるインターネット等に時間が消費されている状況がうかがえる。
参考：NHK国民生活時間調査(全員平均時間量（平日・土日合計) 2015年 ▶ 2020年 ▶ 2025年 推移)
仕事関連・通勤：9:31 ▶ 8:33 ▶ 8:34
学業・通学　　：2:18 ▶ 1:48 ▶ 1:28
家事　　：8:16 ▶ 9:29 ▶ 8:37　※子どもの世話(行為者平均時間量)：11:41 ▶ 13:43 ▶ 14:38
自由行動（会話・交際、レジャー活動、マスメディア接触、休息）：22:55 ▶ 23:43 ▶ 24:19
※インターネット・インターネット動画：1:49 ▶ 4:04 ▶ 5:30

②文化芸術に関する情報が市民に十分に行き届いていない

・市民意識調査等において、文化芸術の満足度の向上や、文化芸術の振興に必要な取り組みとして、情報発信の強化が上位に挙がっており、文化芸術に関する情報が十分に行き届いていない状況がうかがえる。また、調査結果からは、文化芸術への関心が低い層も一定数存在しており、文化芸術の価値や魅力への理解が十分に広がっていない状況がうかがえる。

③質の高い文化芸術に触れる場の不足

・市民意識調査等において、文化芸術の満足度の向上や、文化芸術の振興に必要な取り組みとして、プロ等による質の高いアーティストに触れる機会を求める意見が上位に挙がっている。市主催事業の充実に加え、市民が日常的にアクセスしやすい場所において質の高い公演や展覧会等が実施されることへの期待がうかがえる。

資料２

市民意識調査

【目的】

市の取り組みに対する市民の意向や評価、多角的な視点の意見を伺い、今後の市政運営や政策立案の基礎資料とするため、市民意識調査を実施。

【対象】

令和７年５月１日現在で住民基本台帳に登録される市内在住の１８歳以上の男女1,500人を無作為抽出

【調査期間】

令和７年６月２日（月）から６月２５日（水）まで

【回収結果】

有効回収数（率）６０３人（４０．２％）

（９）この１年以内に、文化芸術※に関する活動（鑑賞を含む）をしたことがありますか。（〇印を１つ）

※　文化芸術には、文学、音楽、美術、舞踊、茶道、華道、書道など様々な分野を含みます。

1　ある
2　活動したい気持ちはあったがしていない
3　ない

〇上記（９）で**「活動したい気持ちはあったがしていない」と回答した方に、活動しなかった理由**をおたずねします。（あてはまるものすべてに〇印）

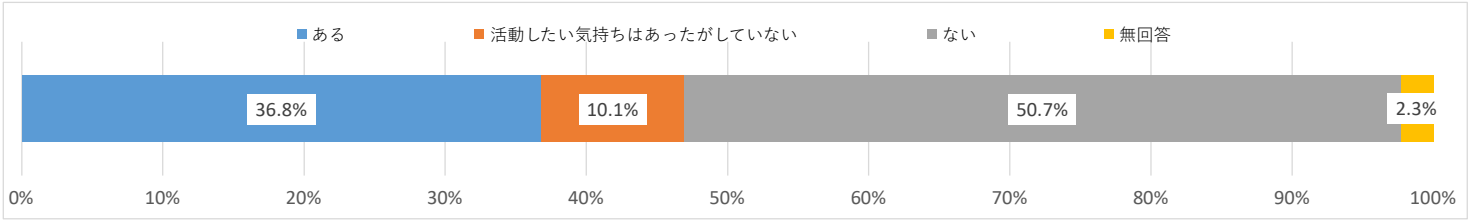
1　身近に参加できる活動が少ない
2　活動の情報が入手できない
3　一緒に活動する仲間がいない
4　活動の時間が確保できない
5　身近に活動する施設がない
6　その他（　　）

区分	回答数	割合
ある	222	36.8%
活動したい気持ちはあったがしていない	61	10.1%
ない	306	50.7%
無回答	14	2.3%
計	603	100.0%

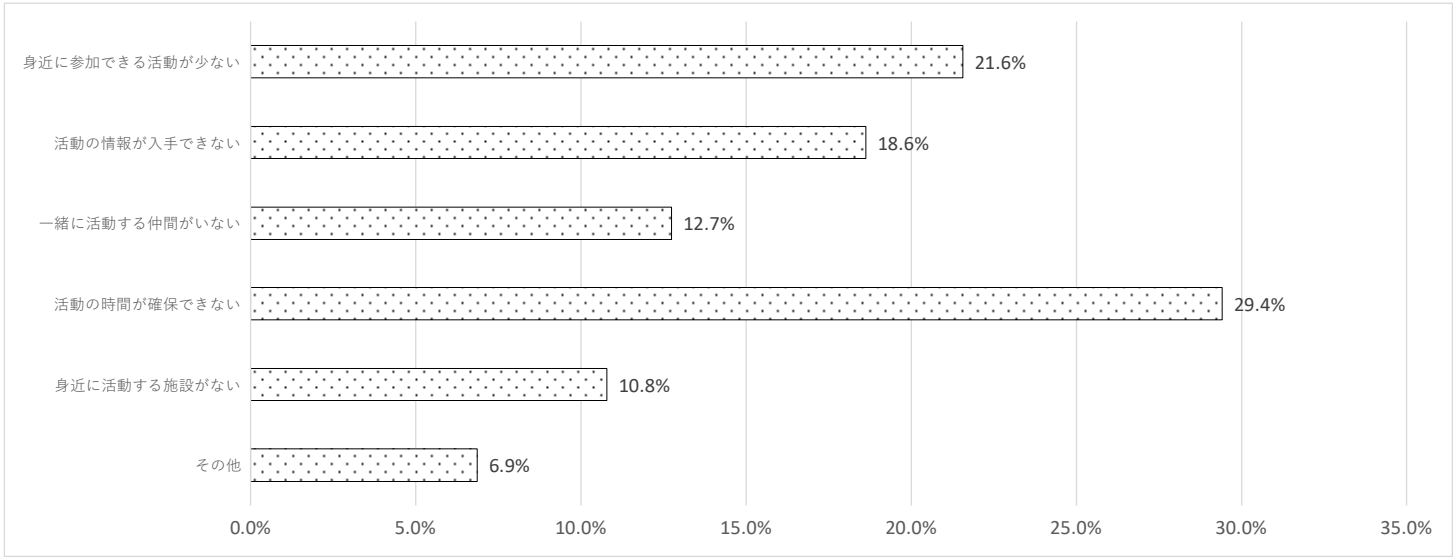
活動したい気持ちはあったがしていないと回答した方の理由

区分	回答数	構成比
身近に参加できる活動が少ない	22	21.6%
活動の情報が入手できない	19	18.6%
一緒に活動する仲間がいない	13	12.7%
活動の時間が確保できない	30	29.4%
身近に活動する施設がない	11	10.8%
その他	7	6.9%

n＝102



活動したい気持ちはあったがしていないと回答した方の理由



・直近1年間に文化芸術活動を「行った」市民は36.8％で、「行っていない」市民が50.7％と過半数を占めている。一方で、「活動したい気持ちはあったがしていない」市民が10.1％を占め、一定数の潜在的な参加意向を持つ層が存在していることがうかがえる。これは、きっかけや環境が整えば参加につながる可能性がある層であり、文化芸術振興において重点的に働きかけるべき対象と考えられる。

・「活動したい気持ちはあったがしていない」とする理由として、「活動の時間が確保できない」が最も多く、仕事や家事・育児など日常生活における役割や負担が大きく、自由に使える時間が限られており、文化芸術活動が定期的・継続的な参加を前提とする場合が多く、参加への心理的ハードルが高くなっていることも一因と考えられる。次いで、「身近に活動する施設がない」が多いことから、活動環境の不足や、利用しやすい場所へのアクセスが課題となっていることがうかがえる。「活動の情報が入手できない」も20％程度ととなっており、必要な人に情報が届いていない状況が、参加機会の損失につながっているといえる。

（11）文化芸術に触れ合う機会への取り組みに対する満足度

文化芸術※に対する市の取り組みについてどのように感じますか。（○印を**１つ**）

※　文化芸術には、文学、音楽、美術、舞踊、茶道、華道、書道など様々な分野を含みます。

1　満足　　2　どちらかと言えば満足　　3　どちらかと言えば不満　　4　不満

○上記（11）で**「どちらかと言えば不満」または「不満」と回答した方**におたずねします。

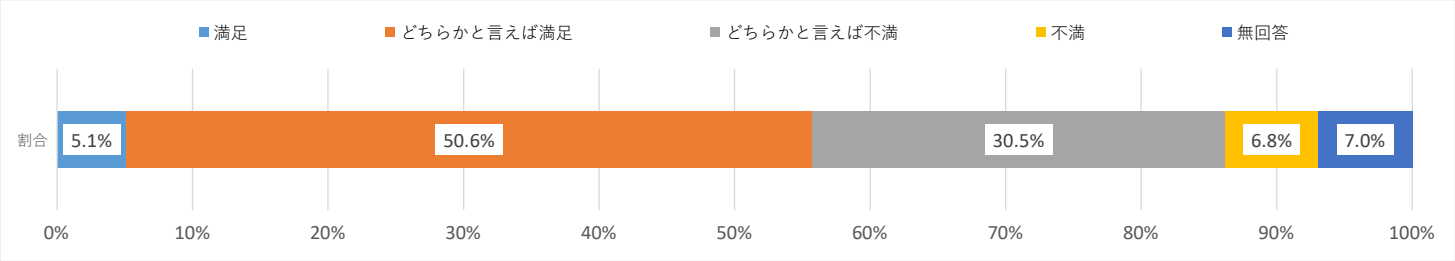
どのような取り組みが必要だと思いますか。（あてはまるもの**すべて**に○印）

1　無料のコンサートや展覧会などを開催する
2　有料でも行きたいと思うようなコンサートや展覧会などを開催する
3　文化芸術を体験できる活動を行う
4　文化芸術に関するイベント情報などを積極的に提供する
5　日頃の文化芸術活動を発表できる機会を提供する
6　その他（　　）

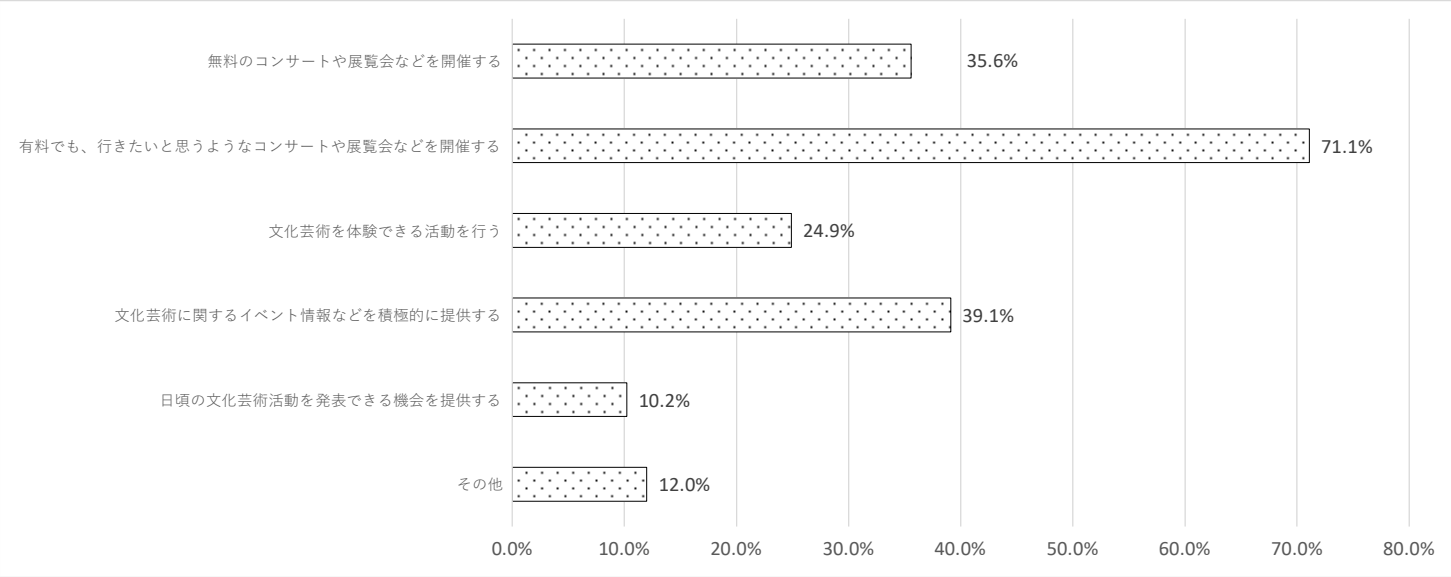
区分	回答数	割合
満足	31	5.1%
どちらかと言えば満足	305	50.6%
どちらかと言えば不満	184	30.5%
不満	41	6.8%
無回答	42	7.0%
計	603	100.0%

「どちらかと言えば不満・不満」と回答した方が考える必要な取り組み

区分	回答数	構成比
無料のコンサートや展覧会などを開催する	80	35.6%
有料でも、行きたいと思うようなコンサートや展覧会などを開催する	160	71.1%
文化芸術を体験できる活動を行う	56	24.9%
文化芸術に関するイベント情報などを積極的に提供する	88	39.1%
日頃の文化芸術活動を発表できる機会を提供する	23	10.2%
その他	27	12.0%



「どちらかと言えば不満・不満」と回答した方が考える必要な取り組み

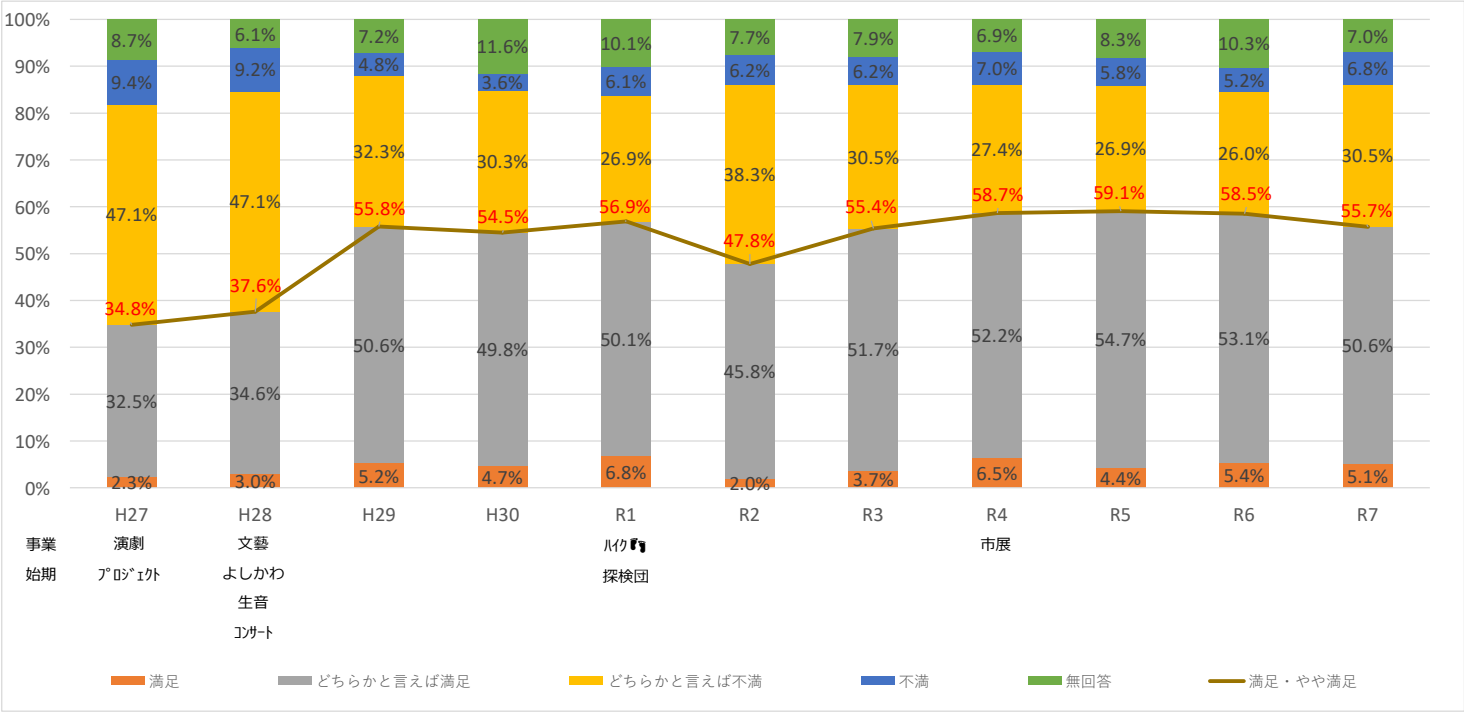


・「文化芸術に触れ合う機会への取り組みに対する満足度」という設問に対し、「満足・どちらかと言えば満足」が55.7%、「どちらかと言えば不満・不満」が37.3%、無回答が7.0%となっている。「満足・どちらかと言えば満足」が55.7%と過半数を占めていることから、文化芸術に触れ合う機会に関する取組については、一定の評価を得ていると考えられる。現行の事業や環境整備が、市民のニーズに対して一定程度応えている状況がうかがえる。

・「どちらかと言えば不満・不満」と回答した方が必要と考える取組は、「有料でも、行きたいと思うようなコンサートや展覧会などを開催する」が71.1%、「文化芸術に関するイベント情報などを積極的に提供する」が39.1%、「無料のコンサートや展覧会などを開催する」が35.6%となっている。不満を感じている層が求めているのは、単に機会の量を増やすことではなく、「参加したいと思える質の高い内容」であることが読み取れる。「有料でも、行きたいと思うようなコンサートや展覧会などを開催する」が71.1%と突出していることから、内容の魅力や価値が重視されていると考えられる。「文化芸術に関するイベント情報などを積極的に提供する」が約4割を占めている点は、必要な情報が十分に届いていない、あるいは魅力が伝わりきっていないことが、不満の一因となっていることがうかがえる。「無料のコンサートや展覧会などを開催する」も一定の割合を占めていることから、気軽に参加できる機会へのニーズも存在している。

参考：市民満足度の推移

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
回答数	652人	595人	601人	644人	635人	596人	681人	554人	569人	574人	603人
満足	2.3%	3.0%	5.2%	4.7%	6.8%	2.0%	3.7%	6.5%	4.4%	5.4%	5.1%
どちらかと言えば満足	32.5%	34.6%	50.6%	49.8%	50.1%	45.8%	51.7%	52.2%	54.7%	53.1%	50.6%
どちらかと言えば不満	47.1%	47.1%	32.3%	30.3%	26.9%	38.3%	30.5%	27.4%	26.9%	26.0%	30.5%
不満	9.4%	9.2%	4.8%	3.6%	6.1%	6.2%	6.2%	7.0%	5.8%	5.2%	6.8%
無回答	8.7%	6.1%	7.2%	11.6%	10.1%	7.7%	7.9%	6.9%	8.3%	10.3%	7.0%
合計	100.0%	100.0%	100.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.1%	100.0%	100.0%
満足・やや満足	34.8%	37.6%	55.8%	54.5%	56.9%	47.8%	55.4%	58.7%	59.1%	58.5%	55.7%



参考：「どちらかと言えば不満・不満」と回答した方が考える必要な取り組みの推移

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
無料のコンサートや展覧会などを開催する	40.8%	36.2%	35.2%	38.9%	40.8%	37.7%	43.0%	34.1%	35.6%
有料でも、行きたいと思うようなコンサートや展覧会などを開催する	71.3%	74.8%	63.8%	76.6%	71.6%	70.7%	64.0%	70.4%	71.1%
芸術文化を体験できる活動を行う	24.2%	25.7%	32.4%	27.2%	28.0%	28.8%	30.6%	26.8%	24.9%
芸術文化に関するイベント情報などを積極的に提供する	36.3%	41.3%	41.9%	41.1%	39.6%	40.3%	38.7%	35.2%	39.1%
日頃の芸術文化活動を発表できる機会を提供する	13.5%	9.2%	10.5%	12.5%	11.6%	13.6%	15.6%	8.4%	10.2%
その他	10.3%	6.0%	11.4%	15.1%	11.6%	8.4%	12.9%	9.5%	12.0%

※平成27年度、平成28年度は選択肢が異なるため、平成29年度から集計

・この10年で様々な事業に取り組み、文化芸術への取り組みに対する満足度は、30％台から50％台後半まで向上している。令和4年度に策定した基本計画は、計画期間を令和5年度から令和8年度までとし、令和4年度当時の満足度58.7％に対し、令和8年度時点での目標値を60.0％と設定している。この間の満足度の推移は、令和5年度が59.1％、令和6年度が58.5％、令和7年度が55.7％となっている。

・この10年で満足度が30％台から50％台後半まで上昇していることから、これまでの文化芸術施策は一定の成果を上げ、市民の評価を着実に高めてきたと考えられる。一方で、第１次基本計画期間中の推移を見ると、令和5年度（59.1％）をピークに、令和6年度（58.5％）、令和7年度（55.7％）と緩やかな低下傾向が見られる。50％台後半という水準で安定しているものの、さらなる満足度の向上を図るには、従来と同様の施策だけでなく、質的な転換や新たな魅力創出が求められている段階にあると読み取れる。また、満足度の伸び悩みの背景には、参加者の固定化、情報発信の届き方の偏りなどにより、幅広い層への浸透が十分でない可能性が考えられる。

文化芸術推進基本計画策定に向けたアンケート調査

【目的】

文化芸術推進基本計画策定に当たり、市民の文化活動の状況と文化に関する考え方等を把握するため、アンケート調査を実施。

【対象】

生涯学習課が所管する文化芸術事業への参加者

【アンケート調査を行なった事業】

吉川市演劇プロジェクト（令和７年８月２２日（金）～２４日（日））
（アンケート対象）事業参加者：２４名、観覧者：４０７名
吉川市民文化祭（令和７年１１月１日（土）・２日（日））
（アンケート対象）事業参加者：８３６名、観覧者：２，２６３名
生音コンサート（令和８年２月２１日（土））
（アンケート対象）観覧者：３２４名

【回収結果】

有効回収数 ５４５人
※事業別　演劇プロジェクト：２６１人、文化祭：１２９人、生音コンサート：１５５人

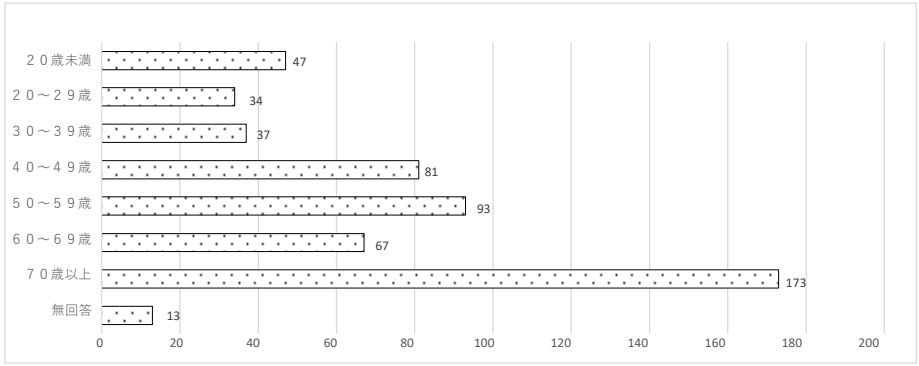
アンケート１（１つ選択）

あなたの年齢について教えてください。

□20 歳未満　□20～29 歳　□30～39 歳　□40～49 歳　□50～59 歳　□60～69 歳　□70 歳以上

（有効回答：545人）

２０歳未満	２０～２９歳	３０～３９歳	４０～４９歳	５０～５９歳	６０～６９歳	７０歳以上	無回答	合計
47	34	37	81	93	67	173	13	545
8.6%	6.2%	6.8%	14.9%	17.1%	12.3%	31.7%	2.4%	100.0%



・幅広い年齢層が市のイベントに参加し、広い世代からアンケートの回答を得ることができた。
・その中で、70歳以上の回答数が31.7%であり、他の年代と比較して顕著に多くなっていることから、年代の高い方の参加意欲が特に高い傾向がうかがえる。

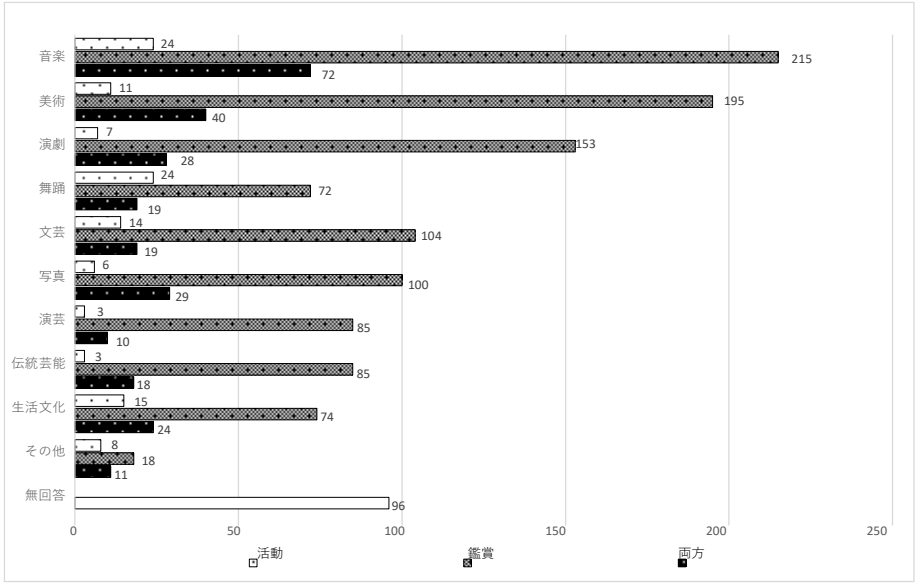
アンケート２（複数選択可）

この１年間に自ら活動･鑑賞したものはありますか。該当する項目すべてに☑をつけてください。

活動のみを行った	鑑賞のみを行った	どちらも行った	
□	□	□	1　音楽（ポップス、ロック、ジャズ、演歌、歌謡曲、クラシック、楽器演奏、合唱など）
□	□	□	2　美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、建築など）
□	□	□	3　演劇（現代演劇、児童劇、人形劇、オペラ、紙芝居、ミュージカル、朗読など）
□	□	□	4　舞踊（バレエ、ダンス、よさこいなど）
□	□	□	5　文芸（小説、詩、俳句、短歌など）
□	□	□	6　写真（風景、人物写真など）
□	□	□	7　演芸（落語、講談、漫談、漫才・コント、大道芸など）
□	□	□	8　伝統芸能（和太鼓、民謡、民舞、日本舞踊、獅子舞、歌舞伎、地域の伝統的なお祭りなど）
□	□	□	9　生活文化（書道、茶道、華道、盆栽など）
□	□	□	10　その他（　　）

（有効回答：545人）

	音楽	美術	演劇	舞踊	文芸	写真	演芸	伝統芸能	生活文化	その他	無回答
活動	24	11	7	24	14	6	3	3	15	8	96
鑑賞	215	195	153	72	104	100	85	85	74	18	
両方	72	40	28	19	19	29	10	18	24	11	
合計	311	246	188	115	137	135	98	106	113	37	96
回答者の活動・鑑賞の傾向	57.1%	45.1%	34.5%	21.1%	25.1%	24.8%	18.0%	19.4%	20.7%	6.8%	17.6%



・いずれの項目にもチェックがない方（無回答）が、回答者の17.6%であった。
・無回答を除き、80%以上の方が市のイベント以外にも文化芸術活動や鑑賞をしており、文化芸術に主体的に親しんでいる市民が一定程度存在している状況がうかがえる。
・活動・鑑賞されている文化芸術分野の傾向は高い順に、音楽が回答者の57.1%、美術が回答者の45.1%、演劇が回答者の34.5%となっている。

【アンケート対象イベント別の傾向】

演劇プロジェクト(有効回答：261人）
①音楽：47.5%、②演劇：44.4%、
③美術：39.1%、④文芸：23.8%、
⑤写真：22.2%

市民文化祭（有効回答：129人）
①音楽：55.0%、②美術：47.3%、
③写真：29.5%、④舞踊：28.7%、
⑤伝統芸能：27.1%

生音コンサート（有効回答：155人）
①音楽：75.5%、②美術：53.5%、
③文芸：31.0%、④演劇：29.0%、
⑤生活文化：27.1%

アンケート３（活動・鑑賞それぞれについて１つ選択）

アンケート２で活動・鑑賞した項目があったと答えた方におたずねします。
文化芸術の活動・鑑賞をしたきっかけはそれぞれどのような理由からですか。活動・鑑賞それぞれについて、主に該当する項目１つに☑をつけてください。

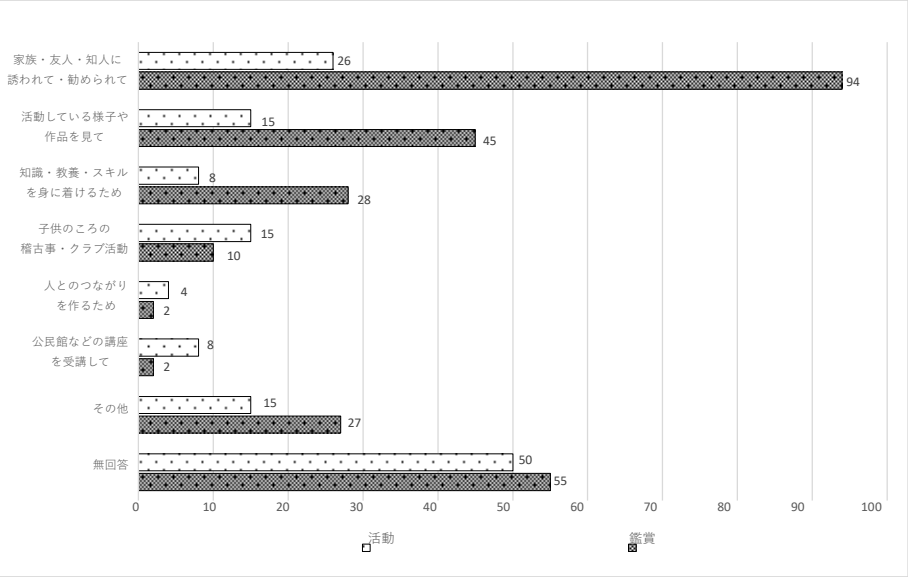
活動のきっかけ	鑑賞のきっかけ	
□	□	1　家族・友人・知人に誘われて・勧められて
□	□	2　活動している様子や作品を見て
□	□	3　知識・教養・スキルを身に着けるため
□	□	4　子供のころの稽古事・クラブ活動
□	□	5　人とのつながりを作るため
□	□	6　公民館などの講座を受講して
□	□	7　その他（　　）

（有効回答：389人）

ｱﾝｹｰﾄ２の回答区分	家族・友人・知人に誘われて・勧められて	活動している様子や作品を見て	知識・教養・スキルを身に着けるため	子供のころの稽古事・クラブ活動	人とのつながりを作るため	公民館などの講座を受講して	その他	無回答
活動	26 (18.4%)	15 (10.6%)	8 (5.7%)	15 (10.6%)	4 (2.8%)	8 (5.7%)	15 (10.6%)	50 (35.5%)
鑑賞	94 (35.7%)	45 (17.1%)	28 (10.6%)	10 (3.8%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)	27 (10.3%)	55 (20.9%)
無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	85 (100.0%)
備考	活動　：（有効回答389人のうち）アンケート2で活動又は両方のいずれかに✓あり　141人 鑑賞　：（有効回答389人のうち）アンケート2で鑑賞又は両方のいずれかに✓あり　263人 無回答：（有効回答389人のうち）アンケート2で活動・鑑賞・両方のいずれにも✓なし　85人							

※その他の主な内容

活動	・趣味として／好きだから（3件） ・過去に経験したことがある／過去の経験が楽しかった（3件） ・仕事の延長（２件）
鑑賞	・趣味として／好きだから（9件） ・特定の応援している人がいる（2件） ・家族や子どもの活動の付き添い（3件）



・アンケート２で活動したと回答した方のきっかけについて、無回答の方を除き、「家族・友人・知人に誘われて・勧められて」が18.4％で最も多く、次いで「活動している様子や作品を見て」、「子供のころの稽古事・クラブ活動」及び「その他」が10.6％という結果となっている。

・アンケート２で鑑賞したと回答した方のきっかけについて、無回答の方を除き、「家族・友人・知人に誘われて・勧められて」が35.7％と最も多く、次いで「活動している様子や作品を見て」が17.1％と結果となっている。

・活動と鑑賞いずれについても、身近な人からの働きかけが活動・鑑賞行動を促す上で重要な要因であることがうかがえる。「活動している様子や作品を見て」が活動・鑑賞の双方で上位に挙がっていることから、実際の公演や展示、日常的な活動の様子に触れることが、関心や行動の喚起につながっていると考えられる。

アンケート４（複数選択可）

アンケート２で活動・鑑賞した項目があったと答えた方におたずねします。
文化芸術の活動・鑑賞をするとき、それぞれどのような方法で情報を得ていますか。該当する項目すべてに☑をつけてください。

活動の情報	鑑賞の情報	
☐	☐	1 ウェブサイト
☐	☐	2 SNS（LINE、X(旧 Twitter)、フェイスブック、インスタグラムなど）
☐	☐	3 (知人等からの)くちこみ、紹介
☐	☐	4 テレビ
☐	☐	5 ラジオ
☐	☐	6 広報誌
☐	☐	7 ポスター・チラシ
☐	☐	8 駅や公共交通機関の広告
☐	☐	9 新聞などの広告
☐	☐	10 特にない
☐	☐	11 その他（　　）

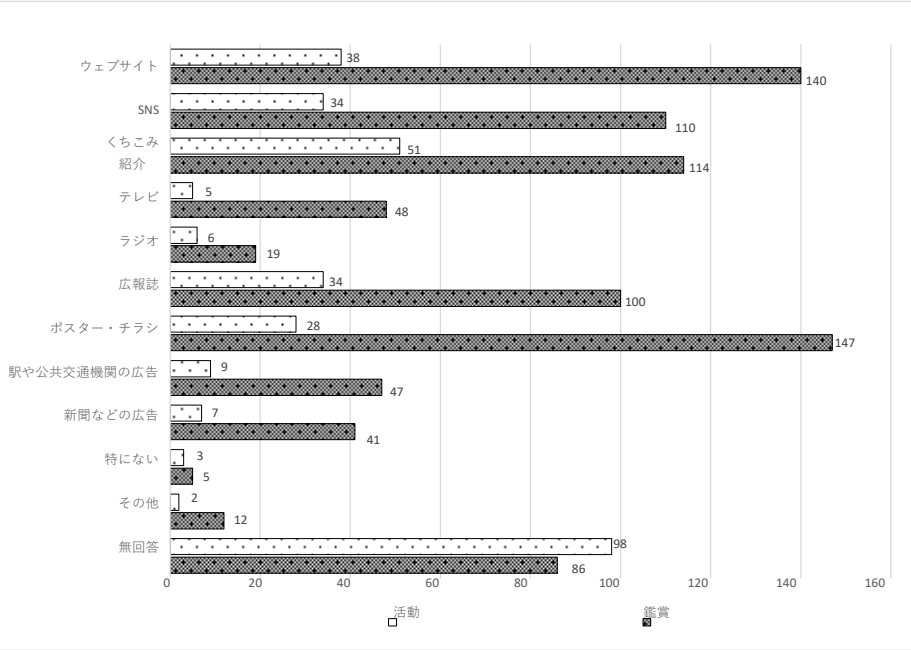
（有効回答：502人）

ｱﾝｹｰﾄ２の回答区分	ウェブサイト	SNS	くちこみ紹介	テレビ	ラジオ	広報誌	ポスター・チラシ	駅や公共交通機関の広告	新聞などの広告	特にない	その他	無回答
活動	38	34	51	5	6	34	28	9	7	3	2	98
	18.1%	16.2%	24.3%	2.4%	2.9%	16.2%	13.3%	4.3%	3.3%	1.4%	1.0%	46.7%
鑑賞	140	110	114	48	19	100	147	47	41	5	12	86
	35.9%	28.2%	29.2%	12.3%	4.9%	25.6%	37.7%	12.1%	10.5%	1.3%	3.1%	22.1%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	81
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

備考
活動　：（有効回答502人のうち）アンケート2で活動又は両方のいずれかに✓あり　210人
鑑賞　：（有効回答502人のうち）アンケート2で鑑賞又は両方のいずれかに✓あり　390人
無回答：（有効回答502人のうち）アンケート2で活動・鑑賞・両方のいずれにも✓なし　81人

※その他の主な内容

活動	・市役所からの案内（1件）
鑑賞	・文化施設からのDM（2件） ・市役所・学校からの案内（3件） ・企業協賛の案内（1件）



・アンケート２で活動したと回答した方の情報取得方法について、無回答の方を除き、「(知人等からの)くちこみ、紹介」が最も多く24.3%、次いで「ウェブサイト」が18.1%、「SNS」及び「広報誌」が16.2%という結果となっている。

・活動は信頼できる身近な人からの情報が参加の動機づけにつながりやすい傾向があると考えられる。一方で、「ウェブサイト」「SNS」「広報誌」がいずれも一定の割合を占めていることから、情報収集手段が多様化している状況も見て取れる。デジタル媒体（ウェブサイト・SNS）と紙媒体（広報誌）がほぼ同程度に利用されている点は、年代やライフスタイルによって情報取得の手段が分かれていると考えられる。

・アンケート２で鑑賞したと回答した方の情報取得方法について、無回答の方を除き、鑑賞では「ポスター・チラシ」が37.7%と最も多く、次いで「ウェブサイト」が35.9%、「(知人等からの)くちこみ、紹介」が29.2%という結果となっている。

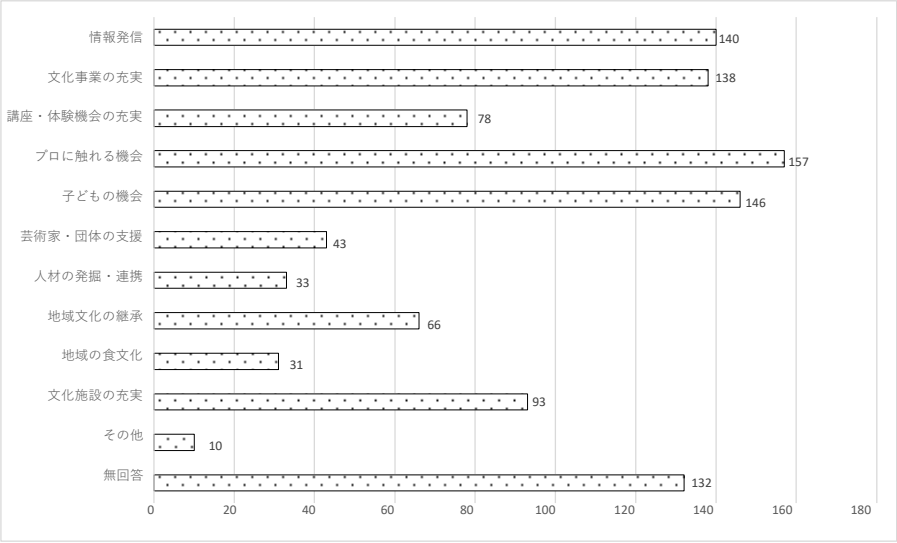
・「ポスター・チラシ」が最も多く、視覚的に直接訴求する紙媒体が依然として高い効果を持っていることがうかがえ、日常生活の動線上で自然に目に入る情報が、鑑賞行動のきっかけとして重要な役割を果たしていると考えられる。「ウェブサイト」が僅差で続いていることから、インターネットを活用した情報収集も広く浸透しており、また、「くちこみ・紹介」も一定の割合を占めていることから、信頼関係に基づく情報は、鑑賞の意思決定を後押しする要因となっていると考えられる。

アンケート５（３つ以内で選択）
あなたは、文化芸術の振興を進めるうえで、どのようなことに力を入れるべきであるとお考えですか。該当する項目に３つまで☑をつけてください。

- □ 1 文化芸術に関する情報の発信
- □ 2 公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実
- □ 3 文化芸術に関する講座や創作体験などの機会の充実
- □ 4 プロのアーティストの作品などの優れた文化芸術に触れる機会の充実
- □ 5 子どもが文化芸術に親しむ機会の充実
- □ 6 芸術家や文化団体の活動の支援
- □ 7 文化芸術で活躍する人材の発掘と連携
- □ 8 地域の芸能や祭りなどの継承・保存
- □ 9 郷土料理などの地域の食文化の継承・保存、体験機会の充実
- □ 10 ホール・劇場などの文化施設の充実
- □ 11 その他（　　）

（有効回答：496人）

	情報発信	文化事業の充実	講座・体験機会の充実	プロに触れる機会	子どもの機会	芸術家・団体の支援	人材の発掘・連携	地域文化の継承	地域の食文化	文化施設の充実	その他	無回答
回答数	140	138	78	157	146	43	33	66	31	93	10	132
割合	28.2%	27.8%	15.7%	31.7%	29.4%	8.7%	6.7%	13.3%	6.3%	18.8%	2.0%	26.6%



・吉川市が文化芸術の振興を進めるうえで、力を入れていくべき取組として、回答者の31.7％が「プロのアーティストの作品などの優れた文化芸術に触れる機会の充実」、29.4％が「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」、28.2％が「文化芸術に関する情報の発信」を挙げている。

・最も割合が高い「プロのアーティストの作品などの優れた文化芸術に触れる機会の充実」からは、市民が質の高い文化芸術に触れる機会への期待が大きいことが読み取れる。次いで「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」が高い割合を占めていることから、文化芸術に対する関心を育む観点で、子ども期からの体験機会の重要性が認識されているといえる。「文化芸術に関する情報の発信」が上位に挙げられている点は、既存の取組や機会が十分に認知されておらず、効果的で分かりやすい情報発信が必要であることがうかがえる。

資料３

吉川市文化芸術推進基本計画（第２次）の基本理念・基本目標・施策の体系（案）

基本理念

文化芸術による幸福実感あふれるまちづくり

吉川市第６次総合振興計画のまちづくりの基本理念である「幸福実感を高める」「共に生き、共に創る」「誇れるまちを未来へ」を実現するため、第２次計画においても、第１次計画の基本理念を継承します。

基本目標１

地域の歴史・文化の継承と活用

地域の文化財や歴史の保存に努めるとともに、それらを活用した触れ学ぶ機会の創出を図り、次世代への継承と活用を進めます。

- 伝統文化・歴史の保存と継承、活用
- 文化財関係機関の管理・運営と整備・充実

基本目標２

文化芸術によるウェルビーイングの向上

誰もが文化芸術を身近に感じられるよう、文化芸術が人生やまちづくりにもたらす価値への理解促進を図るとともに、文化芸術に親しむ環境を整え、多様な市民がそれぞれの関心や経験に応じて参加・鑑賞できる機会の創出を図ります。

- 多様な市民が文化芸術に親しめる機会づくり
- 文化芸術情報の発信の強化
- 文化芸術拠点の整備

基本目標３

文化芸術を活用したまちづくり

地域の魅力向上と課題解決を図るため、多様な文化芸術を活用したまちづくりを進めます。また、行政、市民、民間団体、事業者等の連携・協働による文化芸術の振興を図ります。

- 文化芸術の多面的な活用
- 「吉川らしい文化芸術」の醸成